

日時	令和7年3月13日(木) 13時30分～15時00分	
場所	赤磐市役所 本庁2階 第2会議室	
次第	1 開会 2 市長あいさつ(矢部市民生活部長代理あいさつ) 3 会長あいさつ 4 議 事 (1) 令和6年度 男女共同参画事業報告について (2) 令和7年度 男女共同参画事業計画について (3) 第4次赤磐市男女共同参画基本計画数値目標の見直しについて 5 その他 6 閉会	
出席者	委員	秋川 陽一、越宗 勇、遠藤 益恵、桑田 江里子、森田 尚希、實盛 保子、木村 敏子(7名)
	赤磐市	市民生活部長、協働推進課長、事務局2名
<p>●赤磐市男女共同参画推進条例施行規則第6条第2項の規定により、半数以上の参加があるため、会議成立。</p> <p>●署名委員の選任 木村委員、實盛委員</p> <p>■議事内容</p> <p>(1) 令和6年度 男女共同参画事業報告について 事務局から説明を行い、委員から以下の意見があった。</p> <p>○「セミナーの男性、若者の参加が少ないことについてどうしたら参加につながるか」に対し意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画講演会は、人権のつどいと共催であったが、こどもが表彰されるというところでそのご家族が来られる。結果としてこどもの晴れ姿を見にきたが、講演を聞くことで新たな視点、自分の考えを持つことができよかった、という所に意識がつながっていく可能性が大いにある。こどもが参加する行事に、あるいは若者が参加する行事に関連してこういったイベントをすることも一つの手段だと思う。</li> <li>・男女共同参画団体ネットワークの方々が、男性や若者の参加のため連携を続けていけばより充実していけるのではないか。</li> <li>・商工会には女性部があり、ぜひネットワークに入ってもらいたらいいのではないか。また、商工会、商工会に所属する会社にお願ひできると集まっていただけの可能性が高いのではないかと思う。</li> </ul> <p>(2) 令和7年度 男女共同参画事業計画について 事務局から説明を行い、委員から以下の意見があった。</p> <p>○DV対策関係について、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DVを受けている方の中には、DVと気づいていないことが多いと感じている。啓発は広く一般的にするという意味だが、支援・救済が必要な方への啓発も必要だと思う。</li> <li>・人権擁護委員を務めているが、県下広域的に分かれ、子供部会、高齢者部会、男女共同参画部会でそれぞれのテーマに沿った啓発活動を進めてプログラムを作っている。男女共同参</li> </ul>		

画部会は、「デートDV」がテーマ。要望のあった中学校・高等学校に人権擁護委員が出向き講座をしているので、機会があれば各校に伝えていただき利用してほしい。

(2) 第4次赤磐市男女共同参画基本計画数値目標の見直しについて

事務局から説明を行い、委員から以下の意見があった。

- ・女性防火クラブ員について、令和5年度実績139人だったが、目標値200人を50人カットしている。女性も高齢者も働いていて入会はなかなか難しいのはわかるが、簡単に150人にしてよいのか。
- ・市管理職(1)女性職員の登用率について  
新聞によると岡山県の登用率は21.1%であった。当初の8年度目標25%が、新目標は22%になっている。これは県に合わせたのか。国の成果目標があっても25%でよいのではないか。
- ・全体にわたり、目標や重点目標に沿って項目立てがされているが、この基本目標や重点目標を頭においた事業なのか。推進する側の意識をどのように徹底しているのか。  
男女共同参画担当課として、事業を行う課に対して、計画目標をどのように徹底していくかということが大事になってくる。
- ・「男女共同参画は、地域存続の課題」そのことを市長をはじめ職員に強くアピールし、赤磐市が生き残っていく、生き残るだけでなくもっと発展していくためには、この視点はど真ん中なんだと、今まで以上にどんどんアピールしていきたい。
- ・行政が予算を立て毎年同じことを繰り返して、ただ人数が増える、減るとかの目標値になってしまっているが、どのようなプログラムになっていくのか、中身や質が問題だと思う。
- ・各課にとって数字だけ出している内容になっているように思う。どこにターゲットを絞っているのか。女性のチャレンジ支援数値が下がっているのが気になる。
- ・数値が上がるのはいいのでそのまま、下がっている所はそのままでもいいのか。もう少し上げることはできないか。
- ・それぞれ個別のところの数値を上げていくことを目標にするのではなく、集中化する・特化する・この所を今年はやっていくんだという形でやらないと、ただ各課に予算配分され、それを消化するためでは、一番中心的にこれから進めなければならない、目標がなかなか出来ない。今年度これをやるんだという形でやっていくことが大切。
- ・まちの存続のことを考えると若い女性たちのことを考えた何かをやっていかなければならないと感じる。今回の数値目標も変えるのであれば、出来るだけ従前以上のことをお願いしたい。